

## 南極レポート（第3回）

## 『50年前の第一声を再現』

日本のみなさん、こんにちは。  
48次隊 8J1RL 運用責任者の若生です。

昭和基地は遂に5月31日より太陽の昇らない極夜に入ってしまいました。7月12日までの40日間です。太陽の昇らないと言っても昼頃は短時間ですが、太陽の反射により薄明かりになり、外作業が行えます。早速、先日のC級ブリザードで曲げられた八木アンテナの修復が、設営隊員にお願いして行われました。こ



写真1：極夜のアンテナ修復作業



写真2：10エレメント、ログペリアンテナ搭載可倒式業務タワー

の時期は高所作業車を使用することが出来ず、足場を組上げての作業になりアンテナのメンテナンスには苦勞します。写真のような基地業務用可倒式タワーが欲しいです。極夜に入りコンデションも上がらず運用に努めておりますが、QSO数が伸びません。

### <メモリアル交信>

1957年6月16日は、50年前第1次南極観測越冬

隊として参加された JA1JG 作間 OM が、日本のアマチュア無線家として初めて南極より電波を出した第一声の日です。50年後の6月16日、19:02分（日本時間）当時交信した作間 OM が、今度は日本より昭和基地の 8J1RL を呼び出しメモリアル交信が行われました。当日は友

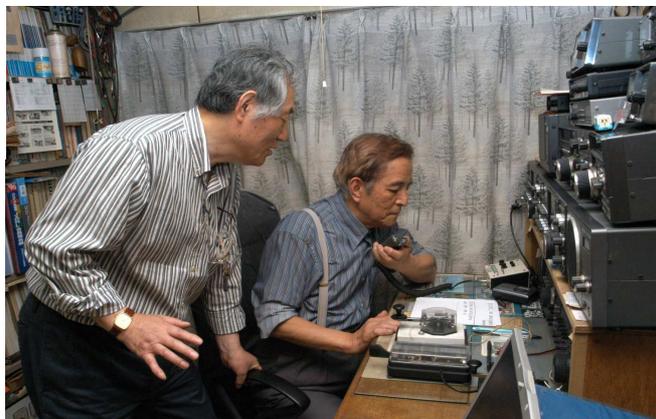


写真3：第1次観測隊員 JA1JG 作間 OM（右）と JA9JX 小島 OM によるメモリアル交信



写真4：8J1RL 歓喜の受信

この様な50周年の節目の記念すべき形として残すことが出来ました。作間OM、小島OM有難う御座いました。益々のご活躍を祈念いたします。

これまで運用された8J1RLのQSLカードの発行作成が行われております。QSLカードは来年3月帰国後JARLより転送されますのでお待ちください。運用ログは月毎にJARLのHP南極レポートに掲載されております。

人のJA9JX小島OMの計らいにより実現し、高岡市の小島OM宅の設備よりゲストオペレーターの形で行われました。2～3日前までは磁気嵐により当日の交信が危ぶまれましたが、東京より高岡まで行かれ、当日を楽しみにされていた作間OMにコンデションの女神は微笑んでくれました。この交信のためにお休みしていた電信の特訓をされて臨まれ、昭和基地へ「599」が送られてきました。越冬当時の苦労話などが当時を蘇らせてくれました。

第48次隊としても、第1次隊の大OMと

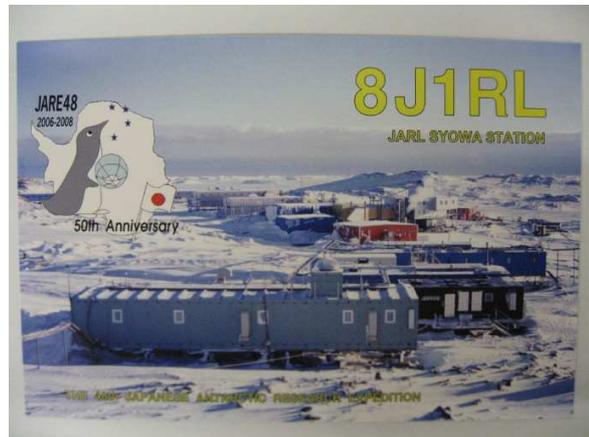


写真5：第48次隊発行8J1RLのQSLカード

(第48次日本南極地域観測隊 若生公郎 JH7QLR 2007年6月18日)